



申年は成長の年

自民党政務調査会 副会長
名誉顧問

藤井基之



二〇一六年は申年（さるどし）です。

そこで、申年にちなんで、織田信長から「サル」と呼ばれた豊臣秀吉にまつわるお話し。本当は、秀吉のことを、信長は「サル」ではなく、「ハゲネズミ」と呼んでいた、とか。江戸時代にたくさんの「太閤記」が出版されましたが、それらの物語で「サル」と書かれ、それが定着してしまっただけです。戦国時代、ポルトガルから日本に布教にきたイエズスのフロイスという宣教師が、当時の日本の様子を克明に記録した「日本史」という本があります。その中で、大坂城で秀吉と面会した宣教師達が、秀吉のことを、「がららいあまり見栄えのせぬその容貌」だったと記していますから、見かけはさえないかったのでしょう。

ところで、「大坂城」は、豊臣秀吉が一五八三年（天正十一年）に築城したも

のですが、一六一五年（慶長二十年）の大坂夏の陣で落城し、燃え落ちてしまいました。その後、一六二九年（寛永六年）に徳川幕府が建て直しましたが、一六六五年（寛文五年）に、落雷によって、御殿などは残ったものの、天守を焼失してしまいました。現在の大阪城天守閣は、昭和六年（一九三一年）に再建されたものです。つまり、現在私たちが見ている大阪城は、秀吉が築城した大坂城とは異なる城ということになります。

その大阪城大手門前で、大阪府立病院の最先端のがん医療施設「重粒子線がんセンター」建設計画が進められています。その建設予定地で、豊臣秀吉が築城した大坂城の遺構の発掘調査が進んでいます。秀吉が創建した天守閣は、信長の築いた安土城をモデルとしており、外観五層で、鯨瓦や飾り瓦、軒丸瓦、軒平瓦など

に黄金をふんだんに用いた豪壮なものであったそうです。ですから別称を金城とか錦城と呼びます。では、実際にどうだったのか。秀吉に招かれて宣教師達が、大坂城を見学したときの記録がフロイスの日本史に残されています。秀吉は、後年、バテレン追放令を出しますが、当初はこのように宣教師達を歓迎していたようです。その理由を、フロイスの日本史に記録されている秀吉自身が話した内容で知ることが出来ます。秀吉は、自分は日本を統一したので、この後は朝鮮と支那を征服したい、そのためにポルトガルに、二隻の大型船と熟練の航海士を斡旋してほしい、と宣教師達に頼んでいたのだそうです。

さて、大坂城を見学したときの様子について、フロイスの日本史の記録を一部要約してみると次のようです。（完訳フ

ロイスの日本史」中公文庫刊）

秀吉は、城内の桁の低いところでは頭をぶつけないようにと、宣教師達に注意しながら、自ら案内しました。ある部屋の前では、「貴殿らが今見ているこの室には金が充満している。別の部屋には銀、ここには絹糸、ダマスコ織。あの部屋には茶の湯の器が、彼方の室には大小の刀剣や立派な武具が充満している。」と自慢。また、別の部屋は、ことごとく黄金でつくられており、その部屋は解体して大箱に入れて移動できるようになっていました。さらに非常に長いたくさんの箱を見せましたが、その中には、なんと組み

立て式の寝台が入っていました。それらは、金糸で縫い付けられているなど、豪華な装飾がなされていました。もちろん、当時、日本には寝台などなかったのです

が、秀吉はベッドで寝ていたのです。一説に、秀吉は、一五三六年（天文五年）一月一日（旧暦）に、日の出とともに誕生（実際は二月六日だとか）。一介の足軽の子供であったが、やがて天下を統一しました。その秀吉も、「なにはこのことは夢のまた夢」というたを残しこの世を去りました。日本を統一し、やがて徳川

以前にも、この欄で紹介しましたが、十二支は、植物の成長過程を表している、という説があるそうです（漢字文化の世界「藤堂明保角川選書」）。十二支の最初は、「子年」ですが、これは植物の「種子」を意味するといわれています。そして「申年」の申は、「伸びる」という字から来たもので、植物が枝を思い切り伸ばして成長する、という目出度い干支です。アベノミクスでは、日本再生を掲げ、いろいろな

経済活性化対策を講じていますが、サルの本年を、エネルギーあふれる太閤「サル」殿の力をいただいで、「元気な日本復活」の年としたいものです。

経済活性化対策を講じていますが、サルの本年を、エネルギーあふれる太閤「サル」殿の力をいただいで、「元気な日本復活」の年としたいものです。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>

●その他 薬学博士・薬剤師

私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員（1期目）
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月～平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員（2期目）
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
文部科学副大臣
- 現在 自民党政務調査会 副会長